

「多文化社会学部」の設置並びに「経済学部」及び「環境科学部」の入学定員減について

長崎大学では平成 26 年 4 月に、下記のとおり、「多文化社会学部」の設置、「経済学部」及び「環境科学部」の入学定員減を予定しています。これらの計画は、文部科学省大学設置・学校法人審議会の審査結果によって確定するものであり、変更があり得ます。

長崎大学では、文部科学省に、多文化社会学部の設置計画を提出しております。また、多文化社会学部の設置に伴い、経済学部及び環境科学部の入学定員減を予定しています。

これらの計画は、文部科学省大学設置・学校法人審議会の審査結果によって確定するものであり、変更があり得ます。この入学者選抜要項に掲載する募集人員、出願資格・要件、入学者選抜方法及び選抜期日などはすべて予定です。詳細については、文部科学省大学設置・学校法人審議会の審査結果通知後（平成 25 年 10 月下旬頃）に発表する予定です。

1. 設置計画及び入学定員減

設置前（平成 25 年度）

経済学部	
総合経済学科（昼間コース）	355 人
総合経済学科（夜間主コース）	60 人
入学定員計	415 人
環境科学部	
環境科学科	140 人

設置後（平成 26 年度）

多文化社会学部	
多文化社会学科	100 人
（オランダ特別コース 10 人を含む。）	
経済学部	
総合経済学科（昼間コース）	265 人
総合経済学科（夜間主コース）	60 人
入学定員計	325 人
環境科学部	
環境科学科	130 人

2. 「多文化社会学部」設置計画

(1) 設置の目的

多文化社会学部は、従来にない斬新な特色ある教育を通して、社会的・言語的背景を異にする多文化の共生と協働が求められる現代のグローバル世界において、高度の英語力と教養を有し、国際的に活躍できる人文社会系グローバル人材の育成を目的としています。

(2) 設置の概要

多文化社会学部は、①高度の英語力を有し、グローバル化する世界において、英語でコミュニケーションやプレゼンテーションができる、②グローバル化する世界における多文化状況に関する知識を有し、文化的多様性の意義を理解できる、③グローバル化する世界の中で、人々と共生的な関係を築き、問題解決に向けて、パートナーシップやリーダーシップを発揮

して行動することができる、人材の育成を目指しています。そのために、カリキュラムでは、留学を組み込んだ4年一貫の英語教育プログラムを整備し、多文化社会に関する基礎から専門に至る授業科目を配置するとともに、問題発見や調査、情報収集のための実践的な技能を養うフィールドワークを設けています。

専門教育は次の4つのコースから成ります。

・ **グローバル世界コース**

法、政治、経済を中心とした「世界の仕組み」を、英語によって学びます。このコースは中期・長期の海外留学が必須であり、そこで身に付けた英語力を用いて、グローバル化の進む現代社会で即戦力として活躍できる人材を育成します。

・ **社会動態コース**

社会学、文化人類学、歴史学を中心に学び、アジアからアフリカ、ヨーロッパにかけての社会の変化を、フィールドワークを通して実践的に理解します。国際的なコミュニケーション力と実践力を身に付けた人材を育成します。

・ **共生文化コース**

思想、文化表象、メディア、言語等の面から、多文化共生社会の基礎となる言語や文化の重要性を学びます。中国語のコミュニケーション能力も高め、アジア諸国等との文化交流のシーンにおいて活躍できる人材を育成します。

・ **オランダ特別コース**

オランダのことを人文社会学の様々な角度から学ぶ日本に唯一のコースで、1年間オランダに留学します。オランダを出発点にヨーロッパ社会について学ぶことにより、欧州の文化に精通し国際的に活躍できる人材を育成します。

(3) 教育課程の概要

① 準秋入学制と Transition Program

入学後、1年次前期に、英語と大学入門科目のみを集中的に履修する Transition Program を実施し、専門教育に係る授業の開始は1年次後期とします（準秋入学制）。ただし、入学時 TOEFL PBT500 点（iBT61 点）以上、TOEIC650 点以上又は英検準1級以上の者には、授業に代えて、約半年間の国内外のボランティア、インターンシップ、フィールドワーク等へ参加させることによって、英語力の一層のブラッシュアップと社会認識の深化を図ることを目指します。

② 外国語教育の充実、留学の必修化

外国語教育は教養教育の外国語科目と専門教育の外国語モジュール（英語、中国語、オランダ語）から編成され、入学から卒業までの一貫した体制を整備します。さらに、英語による授業を実施し、外国語教育と専門教育との融合を図ります。卒業時 TOEFL PBT600 点（iBT100 点）という高度の英語運用能力を達成目標に設定し、その達成に向けて徹底かつ系統的な英語教育を行います。また、外国語運用能力の向上を図り、多文化状況を体験させるため、全員必修の短期留学から一部のコースにおいて必修とする中期・長期の留学を設定しています。

③ フィールドワークと専門科目

多文化社会学部では、自ら課題を設定し、自ら調べ、専門的見地から研究できる能力を

涵養するために、フィールドワーク実習と演習科目を接続させたカリキュラムを編成しています。さらに、1年次の教養教育、2年次から始まる専門教育では、モジュール制（一定のテーマの下に体系化された授業科目群）を導入し、従来の人文社会系学問領域を、それぞれの学問的手法も学びながらも横断的に理解できるよう履修科目の体系化を図っています。

④グローバル教育環境の実現

多文化社会学部のほぼ半数の授業科目は英語を中心に外国語によって行われます。また、多文化社会学部の専任教員の30%近くは外国人教員であり、専任教員の80%近くが1年以上の海外留学や海外での教育・研究を経験しているなど、多文化社会学部はグローバル教育環境、多文化キャンパスを実現しています。

3. 「経済学部」及び「環境科学部」の入学定員減について

(1) 経済学部

経済学部の理念は、「グローバルな視野を持って現在の経済・経営の諸問題を解決できる実践的エコノミスト」を育成することです。このために、経済学・経営学を中心とした専門的で体系的なカリキュラムを編成し、主体的な学習意欲を喚起し専門的知識に基づく問題解決能力を育成するためのアクティブラーニング手法を演習等に取り入れ、英語を中心とするコミュニケーション能力を育成するための豊富な英語科目と短期・長期の海外研修を行います。これらを効果的に実施するためには、学生一人一人に目の行き届くきめ細やかな教育が必要であり、入学定員を415人から325人といたします。

(2) 環境科学部

環境科学部の教育理念は、「環境問題解決の専門知識と能力を有する、グローバルな視野を持った実践的環境スペシャリスト」を育成することです。このために、環境政策コース及び環境保全設計コースの現行2コース制の下に、より高い専門性を涵養する7つのサブコースを設けます。併せて、実践性を涵養するフィールド演習科目を質的かつ量的に一層充実させます。これらを効果的に実施するためには、きめ細やかな指導をすることで教育効果を一層向上させる必要があり、入学定員を140人から130人といたします。